

運動器疾患

科目責任者 種 市 洋
学年 6 学年

I. 前 文

運動機能の障害は肢体不自由の原因として小児から高齢者まで、社会参加の面で大きな障壁となる。運動器疾患の病態を理解し診断、対応について学ぶことは少子高齢化社会を支援する上で基本的な対応を学習することである。ここでは広範囲な内容を集中的に講義する。

II. 学修の到達目標

各種運動器疾患の概要と対応が説明できる。

III. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習として、講義・臨床実習で整理した資料を確認する。所要時間の目安（約3時間）

事後学習として、運動器に関係する過去2年間の本学第2次・3次卒業試験問題解説と医師国家試験問題の解説を復習する。所要時間の目安（約6時間）

IV. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業形式(事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。)

2: ディスカッション, ディベート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	26	水	4	上肢の疾患と外傷	日光・整形外科 長 田 伝 重	1
2		26	水	5	リハビリテーション医学各論・各種疾患のリハビリテーション	リハビリテーション科学 美津島 隆	1
3		26	水	6	脊椎の疾患と外傷	整 形 外 科 学 種 市 洋	1
4		28	金	7	下肢の疾患と外傷	埼玉・整形外科 神 野 哲 也	1

V. 評価基準（成績評価の方法・基準）

カテゴリ試験の成績をもって評価する。その他、試験および成績評価に関する取り扱い等、学生生活のしおりに掲載の各規程を参照すること。

VI. 医師国家試験出題基準（平成30年版）における区分

必修-7-I-(6)(7)(8)(9)(10)(11)

必修-8-J

必修-9-O-(1)(2)(3)(4)

必修-12-I-(10)(11)(12)(13)(14)

総論（Ⅲ人体の正常構造と機能）-8-E

総論（Ⅸ治療）-9-A

総論（Ⅸ治療）-9-B-(1)(2)(4)(6)(7)(8)(9)

総論（Ⅸ治療）-9-C-(3)(5)(6)(7)

- 各論（IX神経・運動器疾患）-3-F
- 各論（IX神経・運動器疾患）-7
- 各論（IX神経・運動器疾患）-8
- 各論（IX神経・運動器疾患）-9
- 各論（IX神経・運動器疾患）-10-B
- 各論（IX神経・運動器疾患）-10-C
- 各論（IX神経・運動器疾患）-10-D
- 各論（IX神経・運動器疾患）-10-E
- 各論（IX神経・運動器疾患）-10-F
- 各論（IX神経・運動器疾患）-10-G
- 各論（IX神経・運動器疾患）-10-H

Ⅶ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験内容の質問等に関して都度解説する。

Ⅷ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	